

「段階的な探究活動の推進」「育成を目指す資質・能力の共有化」
～学校の教育活動全体でのキャリア教育の推進～
 北海道檜山北高等学校 学級数6 (校長 岩田 努)

I 本校の概要と実践テーマの趣旨

本校は昭和47年、今金高校と北檜山高校を前身とし道内初の統合により新設された高校である。その後、幾多の変遷を経て、平成14年から総合学科に転換し、現在は、各年次2クラスの計6クラスに、計185名の生徒が在籍している。

本校ではキャリアガイダンス部を中心に「産業社会と人間」「総合的な学習（探究）の時間」の計画・運営や、キャリア教育に関する行事の運営を行っている。しかし、急速な時代の変化への対応や、生徒や教職員が減少する状況下で、キャリア教育をとおして育てる生徒像を明確にし、必要な資質・能力を育成するために、すべての教育活動のねらいを変えていく必要性が見えてきた。

そこで、平成31年2月に学校教育目標とキャリア教育の全体計画の関連性を整理するとともに、学校教育目標と関連付けた「キャリア教育において育成を目指す資質・能力」を具体化・明確化し、「育成を目指す8つの資質・能力」に整理した。そして、学校の教育活動全体において、「8つの資質・能力」を育成することを意識した授業を展開することで、学校の各教育活動とキャリア教育の関連性を強めることを目指して行った取組について以下に報告する。

II キャリア教育の全体計画の改善

本校では、教職員対象のアンケート結果や、経産省の「社会人基礎力」を参考に、「生徒の強み・弱み」「身に付けさせたい力」を明確化し、それを教職員間で共通理解して実践につなげることができるよう、平成31年2月に、キャリア教育の全体計画を「育成を目指す資質・能力の視点」で改善し、キャリア教育の目標をより明確に示した。

【キャリア教育の目標】

- ①多様な価値観を理解し、様々な他者と積極的に協働する中で自らの個性や能力を発揮できる。
- ②自らの可能性を信じ、自己の成長や目標の実現のために、自律的かつ主体的に行動できる。
- ③様々な観点から物事を捉え、新たな考えや価値を創り出し、課題の解決に取り組むことができる。
- ④社会への貢献と自らの将来を結びつけ、その実現に向けて主体的に取り組むことができる。

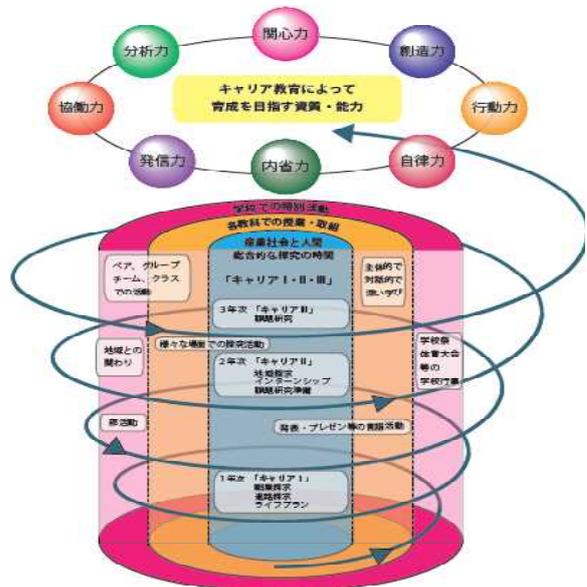
≡ 関連 ≡

【8つの資質・能力】 (丸数字はキャリア教育の番号)

- ・「行動力」…問題の改善・解決のために、周囲の状況を踏まえて、主体的に判断し、積極的な行動をとることができる。(①②③④)
- ・「協働力」…多様な考えや価値観を理解しながら、積極的に他者と協働して物事を進めることができる。(①③)
- ・「発信力」…相手との関係や状況を踏まえて、自分の考えを明確かつ論理的に伝えることができる。(①③)
- ・「内省力」…過去の経験や自分の能力を、客観的かつ肯定的に捉え、現在の自分や将来に活かすことができる。(②④)
- ・「自律力」…自分の立場や目的を踏まえて、自らの感情や言動を律することができる。(①②)
- ・「分析力」…様々な情報を複数の観点から整理・分析し、問題の解決に向けて取り組むことができる。(③④)
- ・「関心力」…社会や世界で起こる事象に関心を持ち、未来を推測したり、自らの生活と関連づけて考えることができる。(③④)
- ・「創造力」…様々な知識や見方・考え方を結びつけ、新たな視点や価値を生み出すことができる。(③④)

そして、「キャリア教育で育成を目指す資質・能力」を「育成を目指す8つの資質・能力」に整理して具体化・明確化し、学校の教育活動全体において、「8つの資質・能力」の育成を意識した授業を展開できるようにして、学校の各教育活動とキャリア教育の関連性を強めることができるようにした。

本校では、8つの資質・能力を右図に示すようにそれぞれ定義するとともに、キャリア教育の目標①～④との関連性についても整理した。また、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」や各教科・科目での取組、特別活動等との関わりについても明示し、右図を各教室に掲示して、各生徒が獲得を目指す資質・能力を、学校全体で共有できるようにした。



育成を目指す8つの資質・能力の図

Ⅲ 「産業社会と人間」「総合的な学習（探究）の時間」の改善

続いて、「8つの資質・能力」を育成することを意識した教科・科目の設定、学習内容の改善を進めた。探究活動の段階的な深化を目指したキャリア学習の改善内容及び1年次の学校設定科目「産業社会と人間」と2・3年次の「総合的な学習（探究）の時間」で展開されるキャリア学習の概要について、以下のとおり紹介する。

1 段階的な探究活動に向けたキャリア学習の見直し

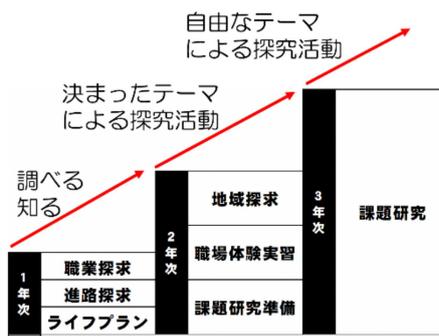
(1) 従前の課題研究（3年次）における問題点と改善の方向性

本校では従前より、生徒の興味・関心に基づいたテーマでの課題研究は行っていたが、探究サイクルを上手く実践・体験できている生徒は少ない、探究活動に適していないテーマ設定・調べ学習の延長線となり全体として内容の浅いものとなっている等の課題が見られていた。

そこで、課題研究で探究サイクルを実践するためには、1、2年次から、3年次の課題研究に向けた段階的な準備とスキルアップが必要であると考えた。

(2) 段階的なキャリア学習の確立

問題点を踏まえ、本校では、段階を踏んで取り組む課題研究へと変更することとした。右図は、各年次におけるキャリア学習が目指すものを大まかにイメージしたものである。



段階的なキャリア学習

1年次では「調べる、知る」活動を主に、その活動の中で、「情報収集能力」や「まとめ・表現する能力」、「書く力」の育成を目指している。2年次では、「地域」という決められたテーマの中で課題を発見し探究活動を行っており、地域の方々にワークショップ形式で町の課題についてあらかじめ説明してもらうことで、生徒が課題を発見しやすいように工夫している。

この結果、3年次のキャリアⅢ「課題研究」は、引き続き、興味・関心に基づいた「自由なテーマ」で行うこととしつつも、段階を踏んできたことで、前年度のキャリアⅡ「地域探求」（2年次）で扱った地域に関する探究を踏まえた、地域社会に即したテーマを設定する生徒が出始めた。適切な段階を踏むことで、ある程度継続した思考で課題研究をスタートさせる事ができ、かつ学校の特色に合わせ、研究テーマに方向性を持たせた探究活動を推進させることができたと考えている。

2 「産業社会と人間」「総合的な学習（探究）の時間」で行われるキャリア学習の概要

(1) 1年次 キャリアⅠ【産業社会と人間（2単位）】

1年を通して、「職業観・勤労観」「進学する意義」「人生において何を大切にするのか」について考えることで、見識を広げ、自己の在り方を見つめ直すようにした。

単元1	職業探求（30時間）：職業適性検査や職業説明会、KJ法「なぜ、働くのか」を通して、興味関心を持った職業を調べ発表する。（写真1）
単元2	進路探求（25時間）：進学に必要な情報を調べ、上級学校を見学し、内容をまとめ、発表する。
単元3	ライフプラン（15時間）：自分自身と向き合い、将来の計画を作成し、今後の目標を明確にする。



写真1 単元1の様子

(2) 2年次 キャリアⅡ【総合的な探究の時間（2単位）】

地域社会を題材として、自ら主体的に活動することで、探究サイクル（①課題発見・設定→②情報収集→③整理・分析→④まとめ・表現）の理解や自分の意見を他者へ伝える能力を養うこととした。

後期は、3年次の課題研究に向けた探究トレーニングや課題研究テーマ決めを行う。



写真2 単元4の様子

単元4	地域探究（53時間）：地域の課題からテーマを設定し、その解決方法の検討や提言を行う。町役場や福祉施設の方とのワークショップを開催し、地域の課題について検討する。（写真2）
単元5	課題研究準備（17時間）：探究トレーニングに取組（特に①課題発見・設定）、探究活動を適切に進めるために必要な準備を行う。



写真3 単元6の様子

(3) 3年次 キャリアⅢ【総合的な探究の時間（1単位）】
興味関心に基づいたテーマについて、探究活動を行い、探究サイクルを経験することで、様々な資質・能力を育成することとした（写真3）。

単元6	課題探究（35時間）：設定したテーマに沿って、研究・調査活動を行い、発表する。最終的には研究レポートを作成し、提出する。
-----	--

IV 各教員の共通理解に基づくキャリア教育の実施に向けて

1 ルーブリックの作成と活用

例えば「行動力」という1つの資質・能力をとっても教員によって捉え方が異なるため、生徒に育成を目指す資質・能力を育む際に、教員間の共通理解を図る必要がある。そのため、各資質・能力について5段階の評価規準を設定し、ルーブリックを作成した。

		SS	S	A	B	C
行動力	目指す姿	上手に行かないときでも、新たな課題を設定したり、別の解決方法を発見したりするなど、課題解決のための工夫ができる。また、周囲の人を巻き込んだり、自分の人間関係の外に働きかけたりすることができる。	課題の解決や目標の達成に向けて、自分ができることを判断し、計画的に実行することができる。また、自分の行動がどのような影響をもたらすのか考えたり、必要であれば周囲の人に協力を求めたりすることができる。	課題や目的を把握し、やるべきこと、必要なことを行動に移すことができる。また、困難な状況になっても、諦めずに達成しようとする気持ちを持っている。	課題や目的を把握し、やるべきこと、必要なことを行動に移すことができる。	現在の状況や目的を踏まえ、準備を整えるべきか、何が必要か考えることができる。
	観点 行動の仕方	視点を養える、他者を巻き込む	計画的に、企画への関わり	困難に立ち向かう、最後まで働く	行動の実行	状況や目的の理解

行動力に関するルーブリック例（一部）

各資質・能力に1～2の観点を設定し、ある程度の幅を持たせつつ、教員間の認識が揃うように配慮している。このルーブリックは、使用する場面に応じ、文言はもちろん、生徒に提示する段階を3段階とする等の対応も可能であり、生徒に自己評価させる際にも活用できる。

図6は、キャリアⅢ「課題研究」を通して育成を目指す8つの資質・能力を生徒に提示し、活用した事例である。

観点や評価規準を簡潔に明示することで、生徒が毎時間の振り返りに活用し、課題研究の質の向上につながられるようにしている。

		行動力	協働力	発信力	内省力
目指す姿		★課題や目的を把握し、やるべきこと、必要なことを行える。 ★困難な状況になっても、諦めずに達成しようとする気持ちを持つ。	★ゼミ内の多様な考え方や価値観の存在を理解できる。 ★ゼミの一員として与えられた役割を果たそうと努力できる。	★自分の考えを、相手の理解の状態を踏まえて伝えられる。 ★表現方法を工夫している。	★研究について振り返ることができる。 ★ゼミ定例報告会やゼミ内での意見を参考にし、調査活動や研究レポートを作成している。
観点		状況や目的の理解・実行 困難に立ち向かう、最後まで働く	他者理解 役割の遂行への努力	相手への配慮 文章以外での表現	活動の振り返り 向上・改善しようとする意識
評価基準	A=5	できた	できた	できた	できた
	B=4	概ねできた	概ねできた	概ねできた	概ねできた
	C=3	できなかった	できなかった	できなかった	できなかった

		自律力	分析力	関心力	創造力
目指す姿		★感情に流されず、研究テーマの調査活動や発表のために必要な行動をとることができる。	★目的に適した方法で情報を収集・整理し、その情報から何が言えるのか考察できる。 ★そこから新たな課題や行うべき調査を見出せる。	★研究テーマと、日常生活、社会・世界との関係性を考えようとする。	★調査活動で得た知識を課題解決へ結びつけられる。 ★ゼミ内の活動（他者）から得た視点や考え方を課題解決へ活用している。
観点		感情の抑制	情報の収集・分析 新たな活動への発展	興味が派生する	研究テーマと知識の結びつけ 考え方の活用
評価基準	A=5	できた	できた	できた	できた
	B=4	概ねできた	概ねできた	概ねできた	概ねできた
	C=3	できなかった	できなかった	できなかった	できなかった

課題研究を通して身に付ける8つの資質・能力の例

右図はキャリアⅡ「地域探求」における振り返りの場面で生徒が書いたコメントである。

理解しやすい資質・能力を提示することで、生徒が「8つの資質・能力」を意識して振り返りを行い、次時の取組の改善へとつなげている様子が見られる。

8つの資質・能力については、各教科のシラバスや、行事等の実施要項などにも記載することで、教員と生徒で実施のねらい等の共通理解を図れるよう、工夫している。右図はキャリアガイダンス部主催の職業説明会で配布した資料の一部である。受講時に期待する生徒の活動例を明示することで、生徒が目的を持って参加しやすいよう工夫している事例である。

⑤単元4「地域探求」の振り返り
(これまでに学んだこと、ついた力、今後に活かしたいこと等)

2町どちらも人口減少が止まらなくなっていて、改善も
難しいことと知った。この提案で協力から人口減少に貢献
できたらと思います。そのためには、今回のキャリアで身につけた行動
や協働力を活かして、実践まで持っていき、いけるようにこれからもっと
話していきたいと思っています。

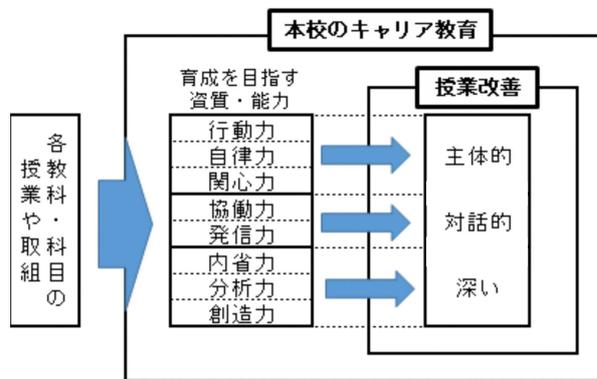
振り返りで生徒が書いたコメント

予型される生徒の活動	行 動 力	協 働 力	発 信 力	内 省 力	自 律 力	分 析 力	関 心 力	創 造 力
多様な職種についての説明を聞くことで、自らの視野や考えを広げる。	○						○	
進路の検討や実現のため、質問を行う等、主体的に各職種の説明を聞く。	○	○			○			
各職種の説明を聞き、今後の生活の中ですべき事柄を理解する。	○			○		○		○
それぞれの職種の仕事内容や、必要な資質・能力を理解し、職業観を形成する。				○			○	

8つの資質・能力と予想される生徒の活動

2 主体的・対話的で深い学びとの関連付け
(今後の授業改善に向けて)

本校でも「主体的・対話的で深い学び」に基づく授業改善を進めている。その際、「主体的・対話的で深い学び」で育成を目指す資質・能力と、学校として育成を目指す資質・能力は、表現の違いはあっても、同じベクトルでなければならぬ。右図のように、「主体的」「対話的」「深い学び」の3つの観点から、本校の「キャリア教育で育成を目指す8つの資質・能力」によって細分化することで、教員間での「主体的・対話的で深い学び」への共通理解、加えて、キャリア教育と各教科・科目等との関連付けができる。今後は、目指すべき授業の在り方が整理されるとともに、「主体的・対話的で深い学び」並びに、「各教科・科目とキャリア教育の関連付け」がなされるよう、取組をさらに推進していきたい。



主体的・対話的で深い学びとの関わり

V 成果と今後の課題

1 成果

- (1) 学校教育目標と関連付けた「キャリア教育で育成を目指す資質・能力」を「育成を目指す8つの資質・能力」に整理して具体化・明確化するとともに、学校の教育活動全体で、「8つの資質・能力」を育成することを意識した授業を展開できるようにすることで、学校の教育活動とキャリア教育の関連性が高い教育課程に改善することができた。
- (2) 「産業社会と人間」「総合的な学習(探究)の時間」で展開されるキャリア学習を、3年次の課題研究の実施を見通して、1、2年次から段階的にスキルアップができるよう改善することで、2年次の地域に関する探究を踏まえた課題研究テーマを設定する生徒が増えるとともに、各生徒が従来より深化した内容で課題研究に取り組むようになった。
- (3) 教員間の共通理解の下、資質・能力に基づく生徒の育成を目指すことができるよう、各資質・能力についてルーブリックを設定し活用することで、評価規準を生徒に提示できるようになるとともに、生徒が自己評価に活用できるようになり、生徒がより主体的に自らの学習内容を改善できるようになった。

2 今後の課題

- (1) 間口減による教員数の減少や教員の入れ替わりにより、本校を取り巻く環境が年々変化して、「特定の教員の技量」ではキャリア教育の指導が厳しくなっていることから、全教員で成果を共有し、8つの資質・能力の育成を生徒へ保証するためのキャリア教育の「型」を確立していくことが必要である。また、その際に、「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」において作成した「キャリアノート」の積極的な活用も引き続き必要となる。
- (2) 本校は「地域の担い手育成校」として、地域で活躍する人材の育成を期待されているが、これまでは地域の課題や状況などを扱う機会が十分ではなかった。今後は改善した教育課程を十分生かした教育が展開できるよう、地域の資源・人材を活用するとともに、2年次からの「総合的な探究の時間」での活動と、3年次の課題研究におけるテーマに継続性を持たせることで、地域の課題や状況についての生徒の思考を深化させていく必要がある。